

# 石川県リハビリテーションセンターニュース

～平成30年度事業等について～

## 目次

在宅リハビリテーション検討会の開催	1
自立支援機器を用いた技術支援の人材育成事業	2
地域リハビリテーション活動支援を推進するための人材育成	3
教育機関への相談・支援の紹介	3
難病相談・支援センター事業	4
高次脳機能障害相談・支援センター事業	5
石川県における高次脳機能障害支援の現状と課題	6

## 在宅リハビリテーション検討会の開催 ～子どもからお年寄りまで、障害がある方の在宅支援を目指して～

在宅医療の推進や医療と介護の連携が求められる中で、県内どの地域の在宅生活者でも最適なリハビリテーション技術支援（以下、リハ支援）を受けることができる体制づくりを目指し、平成29年度から、能登北部、能登中部、南加賀、石川中央東（かほく市、津幡町、内灘町、金沢市）、石川中央西（白山市、野々市市、金沢市）の5会場にて、身近な地域における支援者同士のネットワークづくりの強化を目的とした「在宅リハビリテーション検討会」を実施しています。

平成29年度は、子どもからお年寄りまで様々な障害のある方への在宅リハ支援を提供しているリハビリテーション専門職（以下、リハ専門職）と、介護支援専門員、相談支援専門員、市町職員等との連携強化を図る検討会を開催しました。検討会の中で、障害のある方の在宅支援を適切に行うには、医療情報の共有が不可欠であることや、リハ専門職の同業種連携の必要性について意見があがりました。

そこで、今年度は昨年同様、県内5会場にて、各地域で想定される専門病院や急性期病院、回復期リハビリテーション病院、訪問・通所リハビリテーション事業所、自立訓練（機能訓練）事業所の方々に事業紹介をいただき、リハ専門職と相談支援専門員、介護支援専門員等の各支援者が、有益な情報伝達が図れる場としました。

全体で約170名の参加があり、医療・保健・福祉の多職種連携の強化を図ることができたと考えています。当センターでは、引き続き在宅におけるリハ支援の充実を目標に連携体制づくりに努めていきたいと考えておりますので、今後とも関係機関の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

### ●在宅リハビリテーション検討会のプログラム●

- 【第Ⅰ部】  
医療と在宅のリハビリテーションの連携を考える  
・在宅リハビリテーション活動紹介とディスカッション  
専門病院、急性期病院、回復期リハビリテーション病院、訪問・通所リハビリテーション事業所、自立訓練（機能訓練）事業所  
・リハビリテーションセンターの活動紹介  
各地域の自立支援機器を用いたリハ支援の事例紹介
- 【第Ⅱ部】  
高次脳機能障害者の支援連携とその必要性について



ディスカッションの様子



高次脳機能障害の方に対する支援検討の様子

## 自立支援機器を用いた技術支援の人材育成事業

当センターでは、障害のある方や高齢者の自立生活に向けた支援がなされるよう、リハ専門職をはじめ、医療・保健・福祉関係者の方々を対象にリハビリテーションに関する人材育成事業を行っています。中でも、自立支援機器を用いたリハ支援の知識向上と普及促進を目指し、下記の各種事業を展開しています。

### ◆ 自立支援機器情報交換連絡会 ◆

県内の支援関係者が福祉用具に関する最新情報を得る機会となるよう、福祉用具メーカーの方々を囲んで最新機器に関する情報交換の場である連絡会を、今年度は下記のとおり開催しました。

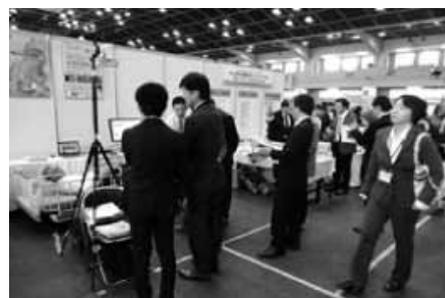
テーマ	開催日	参加者数	形式
シーティング用具	8月5日	36名	定期
介護ロボット (*いしかわ介護ロボットフォーラムとして開催)	10月13日	4,200名	定期
クッション	10月18日	16名	随時
コミュニケーション機器	10月25日	32名	定期
車椅子・付属品	11月19日	21名	随時
軽量自走用(モジュール式)車椅子	1月25日	25名	随時

中でも、10月13日に開催した、いしかわ介護フェスタ併催事業「いしかわ介護ロボットフォーラム」は、日本福祉用具供給協会石川県ブロックとの協力によって実施しました。このフォーラムは、厚生労働省の委託事業であり、介護ロボット開発・普及に係るシンポジウムとして、国の取り組みや事業の成果報告、介護ロボットの効果的な導入・利活用を推進する取り組みの紹介、また、企業25社による30点の最新介護ロボットを展示し体験をすることができました。来場者数は約4,200名で、見守り支援や移乗支援の介護ロボットに興味を持たれている施設勤務の職員が多くみられました。

この連絡会は、年3回の定期開催に加え、メーカーの来県に応じて随時開催も行っており、連絡会の詳細は当センターのホームページに掲載するとともに、随時開催はメールアドレスを登録された方にご案内していますので、ぜひiprc@pref.ishikawa.lg.jpからご登録ください。



自立支援機器情報交換連絡会の様子



いしかわ介護ロボットフォーラムの様子

### ◆ 自立支援機器スペシャリスト育成研修 - 車椅子編 - ◆

#### 1) 実技研修

昨年度に引き続き、当事者3名の方にご参加いただき、「その方に適した車椅子を考える研修」を開催しました。全5回のうち、前半3回はリハ専門職、後半3回は福祉用具専門相談員に受講いただき、リハ専門職の方には、身体状況・ADL能力・環境面等の評価、及び試用評価の結果から個々の当事者に必要な車椅子の条件についてグループワーク形式で検討し、車椅子のプランを立案していただきました。これを受けて福祉用具専門相談員の方には、リハ専門職との意見交換をもとに車椅子製作プランについてのメリット・デメリットやメーカーに発注する上でのポイントを学びました。

#### 2) フォローアップ研修

今年度より、上記の実技研修修了者を対象に、より実践的な支援技術の普及、及び定着することを目的に、フォローアップ研修を開催しています。リハ専門職が提示した事例について、福祉用具専門相談員と多職種で具体的なプランを検討することにより、様々なアイデアが提案されて議論が深まりました。

今後も、より専門的な支援技術をもった人材が各地域に広がるよう、継続的に学び合う場の提供に努めていきたいと考えています。



フォローアップ研修の様子

## 地域リハビリテーション活動支援を推進するための人材育成

今年度は、各市町の地域支援事業で活躍できるリハ専門職の確保及び資質の向上を図るため、石川県PT・OT・ST連絡会と連携しながら、下記に示す仕組みで人材育成のための体制を検討し推進しています。

多くのリハ専門職の協力をいただきながら、各地域で地域包括ケアとリハビリテーションの充実が図られることを目指して事業を推進していきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

### 【人材育成の体制】

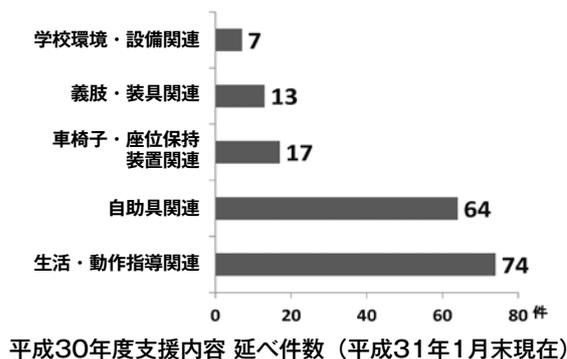
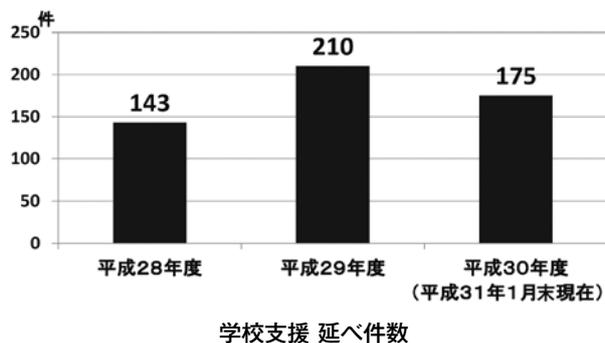
地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが進められる中、日本理学療法士協会・作業療法士協会・言語聴覚士協会の合同で、各地域のPT・OT・STが市町事業を理解するとともに、地域支援事業の要点を押さえた人材の育成を目的に下図のように研修1・2・3を体系的に推進しています。

石川県ではこの方針を受け、県理学療法士会・県作業療法士会・県言語聴覚士会と県リハビリテーションセンターとの協働により、県内のPT・OT・STの資質向上と支援組織の充実を目的に研修①②を行い、リハ専門職の協力者登録を促進していきます。一人でも多くのリハ専門職に参加いただき、県内各地で活躍できることを目指しておりますのでご協力をよろしくお願い致します。



## 教育機関への相談・支援の紹介【特別支援学校・特別支援学級への支援状況】

当センターでは地域リハビリテーション活動支援の一つとして、県内の特別支援学校や特別支援学級に対して、リハビリテーションの技術支援を行っています。今年度は、県内13校の特別支援学校のうち、11校から相談・支援の依頼があり、年々増加傾向にあります。相談内容は、「授業中や給食時の姿勢」、「書字や食事動作」、「歩行や動作（運動）」などに関するものが多く、作業療法士や理学療法士が教育現場に出向き、先生方との協働で個別支援や勉強会などを重ねています。実際に取り組みされる先生方に、日々の学校生活の中で活かせる評価方法（見方）や支援内容を提案していくことが、学校支援において重要なことだと強く感じています。



## 難病相談・支援センター事業

難病相談・支援センターでは、難病患者さんにご家族が抱えている病気や日常生活上の不安を軽減し、安心して療養生活を送ることができるよう、専門医や保健師、心理相談員等による相談をはじめ、同病者との交流支援や就労支援、医療講演会や研修会、福祉制度に関する情報提供、福祉用具や住宅環境の調整等に関する相談支援を行っています。

### ◆ 就労支援 ◆

ハローワーク金沢に配置されている難病患者就職サポーター（以下、難病サポーター）と連携しながら就労支援を行っており、毎年、相談会や個別相談を行っています。患者さんやご家族からよくある相談として、「病気のことを言わないで就労したが、長続きしない」「難病があり、就職先がなかなか見つからない」「職場の上司に難病があることを告げているが、仕事を休みにくく体調を崩すことが多い」「職場の人間関係によるストレスで体調を崩しやすい」等があります。

難病サポーターからは、法律の施行により社会（企業等）における難病の理解が徐々に進んでいる現状、病気をオープンにして就労することが長く働き続ける秘訣であること、働き方の選択肢は幾つもあるため、ハローワーク職員と相談しながら自分に合った方法を見つけていけるとよいこと等のお話や、一人ひとりの状況に応じた具体的なアドバイスをいただきました。

当センターでは、今後も難病サポーター等関係機関と連携し、相談者が一人で悩まずに相談できる機会の確保や支援の充実に努めていきたいと思っております。

### ◆ 同病者交流会 ◆

「同じ病気の方と話したい」というご要望にお応えするため、同病者交流会を開催しています。今年度は進行性核上性麻痺、特発性間質性肺炎、肺動脈性肺高血圧症、天疱瘡、シェーグレン症候群の5疾患を対象に医療講演会を開催し、講演会後に同病者交流の時間を設けました。



いずれの会も暖かく和やかな雰囲気の中で、体の症状や治療、生活で工夫していることなどについて積極的な情報交換が行われました。また、症状のつらさや進行の不安に対して、参加者同士で共感の言葉をかけ合っていたりしました。同病者による深い共感と互いの力強い勇気づけにより、交流会の終わりには参加者の皆さんの表情が明るくなります。先の分からない不安を持ちつつも、病気と付き合いながら前を向いて進もうと、気持ちを新たにされたご様子を感じられました。参加者からは「未だ病気を受け入れられずにいたが、参加して本当に良かった。」「病気はあるけれど、趣味や家族との時間を大切に過ごしたい。」などのお声をいただきました。

今後も対象疾患や開催回数を増やすなど検討してまいります。交流を希望する方がおられましたら、ぜひ当センターまでご連絡ください。

### ◆ 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 ～医療的ケアが必要な子どもへの支援～ ◆

当センターでは、医療的ケアが必要な患者家族会への支援として、家族交流会及び学習会を家族会との共催で実施しています。今年度の学習会は、生活の中や学校の中でできる姿勢保持のポイントや自分の心に向きあい肯定することの大切さをテーマに実施しました。

また、リハ専門職により、成長を見据えた福祉用具の紹介等を行い、自立度の高い在宅生活が送れるよう地域の関係機関と連携しながら個別支援を実施しました。

今後も医療的ケアを必要とする子どもと家族が相互に情報交換することで、地域での孤立化を防ぎ、地域で安心して暮らしていけるよう交流会を開催するとともに相談支援を行ってまいりますので、関係の皆さまのご支援ご協力をお願いいたします。



## 高次脳機能障害相談・支援センター事業

高次脳機能障害相談・支援センターでは、ご本人やご家族が安心して充実した生活を送ることが出来るように各種業務を行っています。

### ◆ 高次脳機能障害普及啓発講演会 ◆

高次脳機能障害について広く知っていただくための講演会を毎年開催しています。今年度は、当事者の鈴木大介さん（文筆業）に「脳は回復する」と題してご講演をいただきました。また後半には、鈴木さんと当事者3名（県内で就労）との対談を行いました。

鈴木さんは、障害受容の大切さ、障害の見えづらさゆえの辛さ、人に頼ることの大切さ等について詳細な実体験を語られ、当事者にはエールを、支援者には、味方探し・味方育てをして欲しいと助言をいただきました。

対談では、昇給が難しい、疲れやすい、優先順位の判断が難しい等の話題や、職場において障害を伝えることが理解につながったという意見がありました。参加者からは「(当事者) 共感した、味方づくりを頑張りたい」、「(家族) 本人の辛さを受け止めていなかったと気付いた」、「(支援者) 関わり方を改めて考える機会となった」等の感想をいただきました。それぞれの立場で多くの気づきが得られ、今後のより良い生活及び支援につながる有意義な機会となりました。



### ◆ 平成30年度 北陸ブロック連絡協議会 ◆

昨年8月、北陸3県の高次脳機能障害支援拠点機関が集まる連絡協議会が当センターで開催されました。渡邊修先生（東京慈恵会医科大学）を助言者としてお迎えし、北陸や全国の現状を共有し、これからの支援体制充実につながる意見交換を行うことができました。

また同日、渡邊先生には県内のリハ専門職を対象に、高次脳機能障害者支援における医療機関と地域との連携について、ご講演いただきました。



### ◆ 本人・家族のための高次脳機能障害講座 ◆

昨年度に引き続き、本人・家族向けの講座を7月から隔月で4回実施しました。各回のテーマは、「障害の理解と対応」、「社会資源」、「就労」、「患者・家族会の活動」とし、前半は講義、後半は患者と家族の会つばさの方を助言者に座談会を行いました。本人・配偶者・親・子等、いろいろな立場で参加いただき、「まだ先のことだが選択肢の一つとして参考にしたい」「自分だけではないと分かり元気が出た」「就労支援機関にも相談してみたい」等の声が聞かれました。日頃の率直な思いを語り共感し合い、これからの見通しを考えるために役立つ機会となりました。

### ◆ 高次脳機能障害実態調査 ◆

高次脳機能障害の当事者・家族への支援の充実や「いしかわ障害者プラン」の改定に資するため、医療機関、福祉施設等のリハ専門職の協力を得て、昨年7月～10月に実態調査を実施しました。

一次調査：高次脳機能障害のある方の有無

二次調査：一次調査で「あり」と回答された施設を対象に、高次脳機能障害のある方の概況を調査

多くの方々にご回答いただいた結果は、「いしかわ障害者プラン2019」に反映し、今後の支援に活かしていきたいと考えています。ご協力ありがとうございました。

## NPO法人高次脳機能障害患者と家族の会 つばさ



【会員構成】 石川県内の高次脳機能障害がある当事者及びその家族

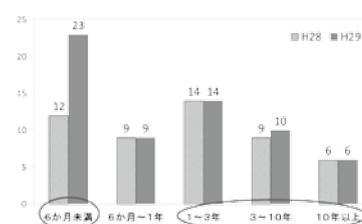
【活動目的】 高次脳機能障害が社会に理解され、この障害があってもその人らしく生きて行くことが出来るよう、皆様の相談に応じて、地域で安心して暮らせるように、医療、福祉、就労、教育などの関係機関と連携し支援を行うことを目的とし、皆で力を合わせてがんばっています。

※同じ悩みを持つ仲間がいます！この障害で悩んでいる方は、ぜひ一度ご参加ください。

## 石川県における高次脳機能障害支援の現状と課題

高次脳機能障害相談・支援センターの相談件数は年々増加しています。本人や家族からの相談が最も多く、新規相談者の発症から相談に至るまでの期間は、6カ月未満が多い一方で、1年以上経過するケースが約半数あります（右図）。また、相談内容は、就労、生活、障害への理解・対応についてが多い状況です。このことから、早期からの支援につながらない場合があることや、障害について認識されていない実態があると考えられました。

そこで、医療機関へ聞き取り調査を実施し、支援の実態を把握することにより、今後の効果的な事業展開を検討しました。



新規相談者の発症から相談に至るまでの期間 (H28・H29年度)

聞き取り調査は、平成29年10月～平成30年12月に、県内13カ所の3次及び2次救急医療機関を訪問して実施し、主に3つの課題が見えてきました。

- ①高次脳機能障害の気づきに関すること：高次脳機能障害に気づかれず診断がつかないことや、制度の理解が不十分なため、高次脳機能障害の支援制度に結びつかない場合がある。
- ②適切な支援の選択・つなぎに関すること：高次脳機能障害がありながらも身体障害がないために介護保険サービスが使えないことが多く、退院後、効果的なリハビリの利用につながらない。また、就労支援が必要なケースが多く、医療機関から職場への直接的な支援には制限があるため、就労支援機関の利用が望ましいものの、支援機関に十分につながらない。
- ③社会資源に関すること：地域により社会資源が不足しており、自動車運転を止められた方の外出手段の獲得が困難な場合が多い。

これらの課題に対し、下記の表のとおり対応策を検討しました。この結果を踏まえ、今後の高次脳機能障害支援体制の充実を図っていききたいと思います。

課題	対策	具体的手段
①高次脳機能障害の気づき	本人・家族が気づくための工夫	リーフレットの見直し・病院外来での設置、新たな設置場所の検討
	関係者・支援者が気づくための工夫	支援者向け研修会
	地域が気づくための工夫	地域団体・民生委員などへの普及啓発
	用語の普及（定義や事業の主旨説明）	支援者向け研修会、支援担当者連絡会
②適切な支援の選択・つなぎ	効果的なリハビリテーション提供のための体制づくり、人材育成	事例検討会などにより地域課題や支援方法を共有、当センターの技術支援
	地域の支援機関と連携強化	就労支援機関、相談支援事務所等との協働
③社会資源	自治体や関係機関に向けた課題の提示	自立支援協議会等での提案（コミュニティバス、免許返納者への支援の充実等）



### ヘルプマークを知っていますか？

ヘルプマークは、難病や内部障害など援助や配慮が必要な方が、日常生活や災害時にそのことを周囲に知らせるマークです。マークを身に着けた方を見かけたときは、思いやりのある対応をお願いします。

※東京都が考案してJIS化がされており、全国で普及が進んでいます。

ヘルプマークに関する問い合わせ先：石川県障害保健福祉課 TEL (076) 225-1426

#### 問い合わせ先

##### 石川県リハビリテーションセンター

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail iprc@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri>

##### 難病相談・支援センター

TEL (076) 266-2738 FAX (076) 266-2864

E-mail nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>

##### 高次脳機能障害相談・支援センター

TEL (076) 266-2188 FAX (076) 266-2864

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>

#### 「相談は傾聴、親身、親切に」

リハビリテーションセンターでは、  
県民ニーズに応えるため、  
より質の高いサービスの提供を  
目指しています。

#### 編集・発行

石川県リハビリテーションセンター  
〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1